

7. 教育研究等環境

中期目標

- 【目標1】 教育研究等を支援する環境を適切に整備する。
 【目標2】 学生・院生並びに教職員の教育研究環境を多角的に支援できる図書館サービスを展開する。
 【目標3】 大学構成員の立場に立ったキャンパス環境の整備を行う。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 初年次教育における修学基礎力の向上を目的として、教養科目群でSAを配置する。 [1-2] e-learning 利用環境を組織的に整備し、定期的な利用講習やコンテンツの作成補助等を行うことで、講義時間外学習時間の確保、繰り返し学習による知識の定着、資格試験準備対策等のための教材作成に向けた授業支援を行う。		[1-1] ①授業評価アンケート ②GPA 分布・推移 ③単位取得状況分布・推移 [1-2] ① 教育支援に対する教員満足度	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] SAを初年次のピアサポートに特化して活用する方策を検討する。	入学時の新生にたいするピアサポートの仕組みは実施に至っているが、その他の科目については科目担当者の意向もあり、制度的に機能していない状況である。	達成度 50%
	[1-2] e-learning を基本科目の反転授業へ使う方法を担当者と協議し試行的に実施する。	実施されていない。	達成度 0% 一部科目で授業映像の記録、配信がなされているが、反転授業として取組に至っているか確認はされていない。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] SAを初年次のピアサポートを、入学時のみならず、その後の授業にまで展開する方策を検討する。		
	[1-2] e-learning を基本科目の反転授業へ使う方法を担当者と協議し試行的に実施する。		

(2) 図書委員会

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 各種図書館ガイダンスのあり方を見直し、学生の有効な図書館利用を促進する。 [2-2] 教員の図書館利用環境について調査し要望があれば、有効な改革を検討し実現する。 [2-3] 新書庫設置の可能性を追求しつつも、現状書庫の有効活用のため、利用度の低い資料の整理を行うなど収納スペースの確保を行う。		① 利用者アンケート ② 各種図書館利用度数 ③ 書架スペースの棚数 ④ 資料増減量	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 初年次のガイダンスでは新生の図書館利用に対する関心と理解度を高める。ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。	① 新生オリエンテーションは4月10日から5月1日にかけて、全学部・学科の基礎クラス対象に図書館の基本的な使い方説明及び図書館ツアーを実施した。 ② 情報リテラシーガイダンスは、全学共通科目論述作文と連携し、前期は5月中旬にOPACでの図書検索・館内での所在確認、新聞記事データベース、マイライブラリの使い方等の説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。後期は10月中旬にCiNiiを活用した雑誌論文検索と所在確認・入手方法について、日経テレコンの活用法の説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。 ③ ゼミガイダンスは3年次・4年次のゼミを対象にゼミの担当教員と図書館担当でガイダンス内容を吟味しゼミの課題にあった資料の紹介やデータベースの使い方をガイダンスを実施している。前期3ゼミ、後期3ゼミの合計6ゼミに対して実施した。 なお、ガイダンスについては、質的な側面も十分に考慮すべきであり、各種図書館利用度数の1つとして実施件数を達成度指標とすることが適当であるかどうかを検討する余地がある。	① 利用者アンケートに基づく達成状況 情報リテラシーガイダンスのアンケートの実施結果は、前期では81.8%、後期では72%の学生がガイダンスは役に立つとの評価であり、また、職員のプレゼンについて前期で76.5%、後期で65%の学生がわかりやすかったと評価している。これらの数字については経年変化を見て検証していきたい。 ② ガイダンス実施件数(図書館利用度数)に基づく達成状況 当年度の実績は6件であった。 中期目標の達成状況の観点からは、現在、ガイダンスを中心としたサービスの充実を図っている段階にあり、多角的な支援までには至っていない。
	[2-2] 教員の図書館利用環境について調査する。	教員の図書館利用環境についての調査は実施できなかった。	未実施
	[2-3] 前年度からの図書委員会方針に従い利用度の低い資料を整理する。並行して、現有の収納スペースの維持・継続利用を可能にする方法を検討する。	書庫狭隘化対策としてB書庫請求記号007、400、500番台の除籍作業計画を立案し平成27年12月から平成28年2月に実施した。007番台は1,254冊、500番台は1,064冊の除籍を行いスペースの確保を行った。400番台については次年度に見送ることとした。	① 書架スペースの棚数に基づく達成状況 書庫狭隘化対策除籍をB書庫007、500番台で実施し棚板枚数で約75棚のスペースを確保した。

		なお、図書館の配架スペースは、新規購入による増加分、教員の退職に伴う研究室から図書館への移管分等の状況から見て今後2年を待たずして飽和状態になると考えられる。このため上記の狭隘化対策と並行し、新書庫設置の可能性も追求している。図書委員会としては、新たなキャンパス整備計画に基づく書庫増築を早期に実現させるため関係部署に働きかけ中期計画を達成したい。	
2016年度	年次計画内容		
	[2-1] 新入生オリエンテーションでは図書館利用の動機付けを行う。論述・作文と連携した情報リテラシーガイダンスを前期・後期に実施し情報リテラシー能力の向上を図る。ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。		
	[2-2] ラーニング・コモンズにおいて、教員が図書館を活用した講義を効果的に行えるように教員の要望を調査し、必要とされる利用環境の整備と支援を行う。		
[2-3] 前年度からの図書委員会方針に従い利用度の低い資料を整理し配架スペースを確保する。並行して、新キャンパス計画に基づく書庫増築を早期に実現するため関係部署に働きかけを行う。			

(3) 研究支援委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	個人研究費の次年度持ち越しのための研究を行う。	[1-1]	他大学の状況を調査し、本学における実現可能性を見極める。関係部署に実現性の研究をしてもらう。
[1-2]	研究業績をデータベースシステムへ入力する仕組み・枠組み・支援体制を整備する。	[1-2]	研究業績記入等教員の最低限の義務事項をまとめ、研究業績の公表義務を周知すると共に、研究費支給の一条件とすることの検討を始める。また所属長から働きかけを行うと同時に、アクティビティの高い教員を評価する(表彰等)。
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] (個人研究費関係) (1) 個人研究費次年度持ち越しの調査研究 (2) 傾斜配分の検討を行う	(1) 近隣大学等での実績調査、財務的(事務手続き、資金)な問題の所在を明らかにするために、様々な情報を収集した。 (2) 傾斜配分をするための基礎となる研究業績の収集を行った。	(1) 基礎的資料の収集をし、関係部署で検討の依頼をした。 (2) 記載事項を明示し適切な情報収集を行った。また年報の報告資料から基本的な集計はしたが、研究業績を研究費支給の一条件とする検討は行えなかった。アクティビティの高い教員のリストアップをした。
	[1-2] (研究業績登録システム) (1) 業績登録システムの有効活用を図る	(1) 現行システムにおける様々な問題点が明らかになったため、これを平成28年度で終了することを視野に、後継システムの選定と、業績収集方法の検討を行った。	(1) 左記のとおり現行システムの欠点が明らかになり、次のシステム導入のための良き検討材料となった。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] (個人研究費関係) (1) 個人研究費次年度持ち越しの調査を基にその実現可能性を検討する (2) 傾斜配分の検討を行う		
	[1-2] (研究業績関係) (1) 業績登録、その情報の効率的利用、評価のためのシステム構築を行う (2) 研究アクティビティの高い教員の評価体制を構築する		
[1-3] (在外・国内研究員制度) (1) 選抜方法の見直しを検討する			

(4) 電子計算機センター運営委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	教育研究システムの安定運用を図る。	[1-1]	情報教育システム課題管理表
[1-2]	e-learning 利用環境を組織的に整備するなど、教員のニーズに合わせた授業支援を行う。	[1-2]	情報教育環境に関する調査
[1-3]	情報基礎科目の履修学生に対する学習支援を継続的に行うとともに、躰きのパターンを分析し、その情報を担当教員と共有することで、学生の理解度を高める工夫を行う。	[1-3]	情報基礎科目相談内容一覧
[1-4]	ICTを活用した教育支援・学生支援の有益な情報収集を行うため、電子計算機センター運営委員若しくは情報処理課職員を各種研修会等に派遣し、本学にマッチしていると思われる試みを積極的に取り入れる。	[1-4]	研修報告、情報教育環境調査
[1-5]	サポートデスクスタッフがやっている映像教材への字幕挿入活動を教員に積極的にアピールし、利用してもらう事で、聴覚に障がいのある学生への講義保障支援を実施する。また、聴覚に障がいのある学生との懇談会を定期的実施することで、よりわかりやすい字幕挿入の仕方を追求しつづける。	[1-5]	字幕挿入実績一覧、字幕挿入に関するアンケート調査等
[1-6]	情報教育システム、アクティブラーニング教室といった新しい施設設備の有効活用を検討する。	[1-6]	情報教育環境に関する調査
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 導入業者とシステム運用に関する定期的なミーティングを実施し、	導入業者との定例会は①教育システム、②ネットワーク関連の2種類あり、それぞれ	課題管理表を作成し、日々発生する課題に適切に対処したことによ

7. 教育研究等環境

	発生している課題については早期解決を目指す。	れ2～3ヶ月ごとに実施しており、その間に発生したインシデント、調査要請事項などの進捗確認を行っている。	り、教育・研究活動に著しい障害は発生しなかった。
	[1-2] e-learning(moodle)を利用した授業支援を行う。また、情報教育環境に関する調査を行い、授業に必要なと思われる環境を整備する。	キャンパス e-learning システム(Moodle LMS)は安定運用されている。広範囲に必要な支援提供を行った。具体的内容は以下の通り。 ・年数回のセキュリティパッチ適用 ・アップデートとサーバパフォーマンスの最適化 ・全学的な新入生向け Placement Test の管理 ・カスタムプラグインの導入とトラブルシューティング ・年間 200 以上のコース作成(学期ごと) ・教務課のための出席入力のコディネート e-learning への要望調査は年度当初行ったが、特段の要請は無かった。	最新の動作環境を調査し必要な手当を行うことにより安定稼働を維持している。
	[1-3] 情報基礎科目の相談内容をデータとして蓄積・分析し、学期末には担当教員との報告会を実施することで次年度の改善へ向けたきっかけとする。	サポートデスクが対応した学生からの相談内容を次年度授業への改善材料としてコンピュータ基礎担当教員へ提供した。	サポートデスクからの情報提供を行うことで、次年度の授業運営検討の素材となった。
	[1-4] 本学の情報教育環境に有益と思われる研修会等に参加し、その内容を報告してもらうことで、情報の共有を図る。	学外研修は私情協「教育改革 ICT 戦略大会」と「Moodle Moot 2016」へ参加した。どちらも電子計算機センター運営委員会にて参加報告され情報共有された。	今年度は情報収集を行い、情報共有が実現できた。
	[1-5] アクセシビリティ委員会と協力して字幕挿入を行っていることを周知し、積極的に利用してもらう。現在の字幕挿入の方式が最善なのかを検証し、より良いあり方を追求する。	年次計画とは異なるが、字幕入れサービスについて著作権法との関連から、そのあり方について図書館を通じて検討した。	コンプライアンス関連の検討・調整を行った。
	[1-6] 今年度は、25 台購入した iPad mini の有効活用について検討を行う。	導入した iPad mini 増設について調査を行った。	実施した調査を基に有効活用法について検討した。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育研究にかかるインターネット環境を整備する。		
	[1-2] 継続し moodle の機能改善および安定運用を図る。		
	[1-3] サポートデスクスタッフと連携し、情報基礎科目の履修学生に対する学習支援の充実を推進する。		
	[1-4] 引き続き研修会等に参加し、参加者からの情報を共有した上で、本学への適用を検討する。		
	[1-5] アクセシビリティ委員会と協力して字幕挿入を行っていることを周知し、積極的に利用してもらう。現在の字幕挿入の方式が最善なのかを検証し、より良いあり方を追求する。		
	[1-6] 教育用パソコンの利用環境を充実させるための検討を進める。		

(5) 情報セキュリティ委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	個人情報の適切な保護と有効活用を行うため、個人情報に関する諸規程やガイドラインの見直しを常に行う。	[1-1]	個人情報に関する諸規程、ガイドラインの確認
[1-2]	学内ネットワークについて、適切なセキュリティ対策を施し、安全かつ安定的に運用を行う。	[1-2]	セキュリティ対策作業実績
[1-3]	学生・教職員等の利用者に対し、継続的な注意喚起を行うことでセキュリティに対する意識を向上させ、インシデントを未然に防ぐ体制を維持する。	[1-3]	注意喚起等実施実績(内容含む) インシデント履歴
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 既存する諸規程やガイドラインの見直しと、個人情報保護規程の制定を目指す。	平成27年8月31日に告示された「文部科学省所管事業分野における個人情報保護に関するガイドライン」との整合性について検討した。	セキュリティ環境の変化が生じ、その対応について研究を進めた。そのため規程の制定には至らなかった。
	[1-2] 学内ネットワークに対し、適切なセキュリティ対策を実施する。学生指導シート「はぐくみ」に関しては、役割権限を適切に管理するとともに、コミュニケーション記録の共有先の指定など、ヒューマンエラーが発生することのないよう、注意を促す。	より詳細な権限設定ができるようにソフトウェアのバージョンアップを行った。また使用マニュアルの整備を行うことにより、適正な利用を喚起した。	ソフトのバージョンアップにより個人情報の共有管理をより適正に行うことが可能となった。
	[1-3] 利用者に対し周知した方が良いと思われる様々なインシデントをセキュリティ通信やメール等で周知徹底する。	特に海外からの研究用メールサーバへの不正アタックを遮断する複数の対策を実施し、その内容について学内へメールにて周知した。	継続的な注意喚起は行わなかったが、メールサーバ不正アタックに因る被害を受け、学内へ防止策について理解を求める情宣を行った。
2016年度	年次計画内容		
	[1-1] 既存する諸規程やガイドラインの見直しと、個人情報保護規程の制定を目指す。		
	[1-2] 学内各システムについて脆弱性が報告された場合、迅速かつ適切なセキュリティ対策を実施する。		

[1-3] 事例が学内外にかかわらず、周知する価値があると思われるセキュリティインシデントは注意喚起を行う。

(6) コラボレーションセンター

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
<p>[1-1] 実践的な学び、課題解決型学習 (Project-Based Learning) を効率的に進める環境を組織的に整備する。</p> <p>[1-2] 学内ワークスタディの推進・拡大を通じて学生の就業力及び社会的資質の一層の向上を図ると同時に、経済的事情を抱える学生への支援機会を広く提供する。</p> <p>[1-3] 実践的な学び、課題解決型学習 (Project-Based Learning) および能動的な活動に対する支援として、ピアサポーター (学生スタッフ) を配置する。ピアサポートによる学生同士の学び合いによる「学生がともに育つ相乗効果」の場を提供する。</p> <p>[1-4] 学生の就業力を高めるために、学生発案のプロジェクトを支援し、学生の自主性、能動性を伸張させる。</p> <p>[1-5] すべての学生が有意義な学生生活を送れるようにするために、学生生活への不適應を解消し、イキイキと活躍できる「居場所」を提供する。</p> <p>[1-6] 大学 (第一キャンパス) の中心に位置する施設として、大学教職員、地域社会との協同を推進する。</p>		<p>[1-1]</p> <p>①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査 (アンケート) ③教育支援に対する教員満足度調査</p> <p>[1-2]</p> <p>①学生スタッフ勤務実績 ②進路決定状況 ③補助金交付状況</p> <p>[1-3]</p> <p>①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査 (アンケート) ③教育支援に対する教員満足度調査</p> <p>[1-4]</p> <p>①プロジェクト活動参加人数 ②進路決定状況 ③学生満足度調査 (アンケート)</p> <p>[1-5]</p> <p>①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査 (アンケート)</p> <p>[1-6]</p> <p>①施設使用状況 ②教育支援に対する教員満足度調査</p>	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>[1-1]</p> <p>(1)各施設の存在を多くの教職員に呼びかけるとともに、施設説明会の実施や機器の使用手引書を作成するなど、施設の利用支援等を学生スタッフとともに進め、利用促進を図る。</p> <p>(2)課題解決型学習 (Project-Based Learning) を効率的に進める環境づくりのため、コラボレーションセンター所員、学生スタッフ、担当事務局職員を他大学等への視察や各種研修会等に派遣し、情報収集活動を行う。</p> <p>(3)『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。</p>	<p>[1-1]</p> <p>(1)センターパンフレットや年報の発行など、学内外への情報発信を行った。また、学生スタッフ用の業務マニュアルなどを整備した。これにより、土曜日に開催される学会等において施設運用サポートを学生スタッフが対応した。</p> <p>(2)学生スタッフ2名とセンター長、事務局職員の計4名により、愛知県内の大学の視察を行った。</p> <p>(3)年度末に『コラボレーションセンター年報』を発行した。また、学生スタッフを中心に「月報」を作成し、コラボレーションセンターの活動内容を定期的に学内に周知した。</p>	<p>[1-1]</p> <p>資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査 (アンケート) 資料：教育支援に対する教員満足度調査</p>
	<p>[1-2]</p> <p>(1)「学内ワークスタディに関する規程」を制定し、本学における学内ワークスタディの体制を整備する。</p> <p>(2)学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、コラボレーションセンターの事業運営を担う学生スタッフを採用する。</p>	<p>[1-2]</p> <p>(1)「札幌学院大学学内ワークスタディに関する規程」を制定 (9月7日制定) した。</p> <p>(2)「札幌学院大学学内ワークスタディに関する規程」に基づき、学生スタッフの採用を行った。</p>	<p>[1-2]</p> <p>・学生スタッフ勤務実績 (8名/2015.6月～) 勤務総時間 2797時間 25分 学生スタッフ最大 422時間 30分 学生スタッフ最小 106時間 50分 学生スタッフ一人当たり平均 349時間 40分</p> <p>・進路決定状況 学生スタッフ卒業対象者 1名 →内 1名ワーキングホリディ予定</p> <p>・補助金交付状況/987千円 (未確定)</p>
	<p>[1-3]</p> <p>(1)学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動 (ピアサポート) を展開する。</p>	<p>[1-3]</p> <p>(1)学生スタッフにより、学内関係窓口への橋渡し役となるピアサポートを 11月から開始した。また、LINE@、Facebook ページによる新入生からの相談窓口を開設し、学生スタッフによる対応を行った。</p>	<p>[1-3]</p> <p>資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査 (アンケート) 資料：教育支援に対する教員満足度調査</p>
	<p>[1-4]</p> <p>(1)学生が中心になって構想、計画する学生発案型のプロジェクトを募集する。</p> <p>(2)本学のブランド力を高めるために、学生発案型プロジェクトを支援し、これを学外に向けて積極的に情報発信する。</p> <p>(3)プロジェクト遂行の方法論 (プロジェクトマネジメント) を学生に身につけさせる方法を検討する。</p>	<p>[1-4]</p> <p>(1)1プロジェクトにつき最高 50万円を支援する「学生発案プロジェクト」の募集を行い、今年度は3件を採択した。</p> <p>(2)採択されたプロジェクトには、ブログや twitter アカウントの開設による情報発信を義務づけ、定期的に情報発信をするように促した。</p> <p>(3)申請書の作成、審査会におけるプレゼンテーションと質疑応答、プロジェクト予算の受け渡しや物品購入、報告</p>	<p>[1-4]</p> <p>・プロジェクト活動参加人数/計 13名 「携帯用アプリ開発プロジェクト」3名 「松山大学との学生交流促進プロジェクト」8名 「音声認識を利用した情報保障プロジェクト」2名</p> <p>・進路決定状況 学生発案プロジェクトメンバー卒業対象者 2名 →内 2名内定 (就職)</p> <p>・資料：学生満足度調査 (アンケート)</p>

		書の作成と提出などの「学生発案プロジェクト」遂行を通して、継続的な窓口指導を行った。(Collaboration Center 相談センターにて)	
	<p>[1-5]</p> <p>(1)学内関係機関との連携による学生生活上の不安を解消、学生生活適応のための企画を実施する。</p> <p>(2)課外活動応援などの帰属意識を高める企画を実施する。</p> <p>(3)友達作り、サークルの立ち上げ、既存サークルの紹介など学生が交流する企画を実施する。</p> <p>(4)情報ポータルやFACEBOOKページを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。</p> <p>(5)「居場所」としての環境を維持、整備する。</p>	<p>[1-5]</p> <p>(1)学生生活上の不安を解消までとはいかないが、「雛飾り」の展示や、学生国際交流委員会との共催による「SGU Halloween Party」の開催など、季節の行事を通して、学内の雰囲気作りを行った。</p> <p>(2)LINE スタンプの製作・販売を行い、卒業生を含む本学関係者に使用されている。また課外活動の練習の様子や大会の学内へのインターネット中継を行うべく、機器の購入などの準備を進めた。</p> <p>(3)学生スタッフの立案による、テーブルゲームプロジェクトなどを通じて、他学科・他学年の交流の場を用意した。また、「諸活動紹介動画」の募集を行い、入学式やデジタルサイネージで上映するなど、サークル等の紹介の場の提供も行った。</p> <p>(4)情報ポータルやFACEBOOKページのほか、Twitter アカウント、LINE @アカウントも開設し、Collaboration Center 各施設の使用風景などもふくめ、頻繁に情報発信を行った。</p> <p>(5)SGU coffice (C206) 内に「利用者の声」用紙と回収BOXを設置し、運用初年度の利用学生等の要望等の集約を行った。また、エントランスを含む、各施設の利用状況を把握し、必要な備品等の整備を行った。</p>	<p>[1-5]</p> <p>資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査(アンケート) ・プロジェクト活動参加人数/計17名 「LINE スタンプ製作プロジェクト」5名 「屋台カフェ運営プロジェクト」7名 「SGU Halloween Party」5名 ※上記には学生スタッフ含む。 ※ここに記載するのはプロジェクトメンバーのみであり、参加者および利用者については含めていない。</p>
	<p>[1-6]</p> <p>(1)高校生や高校教員をターゲットにした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。</p> <p>(2)地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。</p> <p>(3)ホームページやFACEBOOKページなどのSNS(ソーシャルネットワークキングサービス)を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。</p>	<p>[1-6]</p> <p>(1)6月から採用した学生スタッフを中心に、6月の大学祭、7月・9月・3月のオープンキャンパスにおいて企画を実施した。また8月に開催した開設記念特別講演会では高校生の進路をテーマに設定をして実施をした。</p> <p>(2)学生発案プロジェクトにおいて、国内協定校の松山大学と連携するプロジェクトを採択した。</p> <p>(3)特設サイトの開設、Facebook ページ、Twitter アカウント、LINE@アカウントを開設し、情報発信を行った。</p>	<p>[1-6]</p> <p>・資料：施設使用状況 ・資料：教育支援に対する教員満足度調査</p>
2016年度	年次計画内容		
	<p>[1-1]</p> <p>(1)実践的な学び、課題解決型学習(Project-Based Learning)を効率的に進めるための環境整備のため、必要な備品等を備えるとともに、施設説明会の実施や機器の使用手引書を作成するなど、施設の利用支援等を学生スタッフとともに行う。</p> <p>(2)企業と連携した商品開発や、店舗運営など、実践的な学びの機会を提供する。</p> <p>(3)課題解決型学習(Project-Based Learning)を効率的に進める環境づくりのため、コラボレーションセンター所員、学生スタッフ、担当事務局職員を他大学等への視察や各種研修会等に派遣し、情報収集活動を行う。</p> <p>(4)『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。</p>		
	<p>[1-2]</p> <p>(1)学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、コラボレーションセンターの事業運営を担う学生スタッフを採用する。</p> <p>(2)学生スタッフの業務における各種研修やOJTによって、学生の就業力及び社会的資質の向上を図る。</p>		
	<p>[1-3]</p> <p>(1)学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動(ピアサポート)を展開する。</p> <p>(2)LINE@およびFacebook ページによる新入生(入学手続き者)からの相談窓口を開設し、新入生の不安軽減を図る。</p>		
	<p>[1-4]</p> <p>(1)学生が中心になって構想、計画する学生発案型のプロジェクトを募集する。</p> <p>(2)本学のブランド力を高めるために、学生発案型プロジェクトを支援し、これを学外に向けて積極的に情報発信する。</p> <p>(3)プロジェクト遂行の方法論(プロジェクトマネジメント)を学生に身につけさせる方法を検討する。</p>		
	<p>[1-5]</p> <p>(1)友達作りや、学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のための企画を実施する。</p> <p>(2)課外活動応援や大学オリジナルのLINE スタンプの制作など、帰属意識を高める企画を実施する。</p> <p>(3)情報ポータルやFACEBOOK ページを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。</p> <p>(4)季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り(四季の変化を学内に)を行う。</p> <p>(5)「居場所」としての環境を維持、整備する。</p>		
	<p>[1-6]</p> <p>(1)高校生や高校教員をターゲットにした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。</p>		

<p>(2)地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。</p> <p>(3)ホームページや FACEBOOK ページなどの SNS (ソーシャルネットワークキングサービス) を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。</p> <p>(4)教員が研究等について語ることを通して、教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールするとともに学生に知的刺激を与える「SGU Science Café (仮称)」をエントランスで開催する。</p>

(7) 常任理事会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
講義の担当時間と研究業績の公表等のバランスについて調査し、適切に管理する。		① 講義担当時間推移と研究業績の推移	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>【1-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教員の講義の担当時間と研究業績の公表等の調査を行い、認可申請に向けての体制を整える。 専任教員と非常勤の担当科目のバランスについて、調査し、カリキュラムの改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人文学部の再編計画にともない、人文学部のカリキュラム・教員の担当時間数等の調査を開始し、総合研究所の実施する全学の研究業績調査結果と併せて、研究環境改善のための講義ノルマ等の再考の準備を進めた。また、この調査により、認可申請の際の教員業績審査への対応の準備も進めることができた。他学部についても担当時間の調査を行った。 非常勤の担当科目・講義時間数の実態把握を進め、全科目における非常勤担当の比重についても把握した。また、カリキュラムについては、地域連携科目・学部横断プログラム等の充実を、専任教員科目として実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 講義担当時間と教員の研究業績の状況の相関については、3年程度経年的に状況を把握する必要がある、その初年度としての作業が進んだ。 非常勤科目の見直しは従来進められているものの、非常勤教員数の対専任教員比は増加し、200%前後となり、高い水準にあることが確認できた。ただし、内容の詳細な検討を今後進めて、適切にバランスをとる必要がある。
2016年度	年次計画内容	<ul style="list-style-type: none"> 全教員の講義担当時間・教育改善の取り組み・研究業績の状況の把握を継続し、教育研究のより有効な成果を得るために改善すべき点を検討する。 専任教員科目と非常勤担当科目の内容を精査し、科目の精選とカリキュラムの改善を検討する。 研究活動の不正行為と公的研究費の適正な管理・運営の仕組みを確実に機能させる。 FD活動を活性化し、SDとも連携した授業改善を促進する。 	

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
学生の学修環境及び教員の教育・研究環境の整備に関わる方針について、財政状況を考慮しつつ検討し、その結果を公表する。その方針に基づき、キャンパスの施設設備の整備を行う。		① 方針の策定と公表 ② 整備状況実績報告	
2015年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>【3-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> コラボレーションセンターの運用開始に伴い、①学生へのきめ細かな支援を行う場、②くつろぎと学習の場、③多様な活動への挑戦を通じた未来創造の場として機能させる。 図書館書庫の狭隘化とその対応として、計画的な図書の収集と図書の除籍によるスペースの確保を行う。除籍の方法については別途検討する。 キャンパスの拠点展開については、今後の学生募集に寄与できる政策の一つであり、理事会として一定の方向性を出し、関連機関と協議し、判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> コラボレーションセンターについては、本格的に活動が始まり、2015年度は「戦略的予算」の対象として、学生スタッフ人件費など事業全般に関し財政的裏付けを行った。次年度は経常予算化を図り、新規事業に関しては、「戦略的政策予算」で対応する。 図書館については、学生の主体的・能動的学びを促す新しい自主学習空間であるラーニングコモンズや、それと連動し、学生・教職員・地域住民が集うグローバル化推進の拠点として、国際交流ラウンジを整備し、図書館2階に新たな教育学習環境を展開することを計画し、2015年度中に一部整備が実施された。なお、図書の収集や図書の除籍に関しては、図書委員会を中心にその方法が議論され、学内の合意に基づき実施された。 キャンパスの拠点展開については、札幌市や札幌副都心開発公社と協議し、一定の方向性を出せるよう、検討を続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> コラボレーションセンターに関しては、学生スタッフと協働し、様々な支援活動やプロジェクト活動を実施し、学内の活性化に寄与している。 図書館書庫については、2号基本金を見直し、新たに作成される大麻キャンパスの整備計画全体の中で検討を進めることが確認されている。 拠点展開については、2016年度に札幌市がプロポーザルを予定していることから、その方向性と方針及び計画を策定し、評議員会に諮り、理事会で判断し決定する。
2016年度	年次計画内容	<ul style="list-style-type: none"> コラボレーションセンターに続き、図書館ラーニングコモンズ及び国際交流ラウンジを整備する。 学園創立80周年に向けた「キャンパス整備計画2016」(仮称)を策定する。図書館書庫の狭隘化の問題もこの中で解決を図る。 老朽化した施設・設備の更新及び修繕事業を計画的に実施する。 第2キャンパスのLED化を推進する。これと合わせ、電力自由化に対応し、前年度の4%カットを目指す。 先端の情報ネットワーク技術を適用した教育・研究環境の充実と情報セキュリティ対策の向上を図る。 キャンパスの拠点展開については、札幌市のプロポーザルに対応し、その方向性と方針及び計画を策定し、評議員会に諮り、理事会で判断し決定する。 	